

文を高める武＝日本跆拳道
社会に貢献する日本テコンドー協会有段者
弁護士 石橋俊一（岡山大学テコンドー部）

1、感想文

1) JTA 入門の動機

岡山大学に入学した春、新入生歓迎期間にテコンドー部を見学しました。そこで、諸先輩方の蹴り技の美しさを拝見し、心を打たれたことがJTA入門の動機です。

高校時代、柔道部に所属していたこともあり、入門以前から、格闘技への関心、身体的・精神的強さへの憧れを持っていました。柔道の技も美しいのですが、テコンドーの技には、組み技にはない美しさと自由があります。テコンドーを通じて、身体的・精神的な高みを目指そうと思いました。



2) JTA 入門から今までの精神的な成長の回想

テコンドーを始めてから1～2年の間、組手の公式戦で勝ったことはほとんどありません。初めて出場した大会の個人組手1回戦目は、今でも鮮明に覚えています。試合中、ほとんど何もできないまま、相手選手の横蹴りを中段にもらい、よろめいて尻餅をつき、敗退しました。その大会までの数か月間、毎日トレーニングをし、練習日には遅くまで残って鏡の

前で素蹴りをし、技術を先輩方にも認められ、意気揚々と大会に臨んだにもかかわらず、緊張と恐怖ですくんでしまいました。相手選手の技術も高かったのですが、私は自身の精神的未熟さを恥じ、とてもショックを受けました。その後の大会も黒星続きで、試合後、琵琶湖を眺めながら「どれだけ練習してもじぶんでは通用しないだろう。」と感傷にひたったこともありました。

テコンドーを始めて3年目で、緊張と恐怖への向き合い方がようやくわかってきました。これもたくさんの先輩・後輩方、尊敬して止まない妹尾師範代と一緒に練習させていただき、組手の前には呼吸を整えること、蹴りを受けることで自分の弱点を教わること、常に笑顔で戦いを楽しむ姿勢をもつことの重要性を体感したためです。

岡山大学テコンドー部の主将を務めていた大学3年次、学生大会で優勝し、全日本フルコンタクトテコンドー大会の出場権を手に入れました。その大会前の1か月間の緊張と恐怖はすさまじく、部活動後も自宅で倒れるまで素蹴りに打ち込み、K-1など他の格闘技のスタイルを研究して取り入れるなど、これまで以上に身体的・精神的に追い込みました。その甲斐あってか、大会では緊張と恐怖を感じることなく、笑顔で楽しむことができました。大会での成績や新人賞をいただいたことはもちろんですが、これらの体験が、今の自分への自信につながっているように思います。

また、これ程テコンドーに没頭することができたのは、先輩・後輩方の支援や、文武とも経済的に支えてくださった家族、常に笑顔で高潔な妹尾師範代をはじめ、各分野において正しさを背中語る、尊敬できる先人達の存在があったからこそであり、大変感謝しています。

J T Aテコンドーを通じて獲得した精神的成長は何事にも代えがたいものです。



3) 今後の抱負および後輩へのアドバイス

今後の抱負は、自分が凡才であることを忘れず、努力し続けることです。

努力の結果としてある地位を手にするのがあっても、その先で遭遇したことの無いような猛者と競争をすることになり打ちのめさったりします。そんなとき、ついついじぶんの才能のなさをうらんでひねくれてしまうのですが、じぶんの根本は白帯を巻いたころと何ら変わらないのだと思えば、「また努力していこう」と前向きになれます。

現在、弁護士1年目の慌ただしい毎日を過ごしています。各分野の教養や先を見通す力など、欠けている点は多々ありますが、「この人、なんだか頑張っているから、自分もがんばろう」と思っただけのような存在になりたいです。

後輩の方々へ。後輩の方々からは、努力、強さへの熱意、正義の心、勢いなど、「太刀打ちできないな」と尊敬させられることがたくさんあります。何かをアドバイスできるような立場にはありませんが、テコンドーのみならず、じぶんの関心のある分野で、元気に、気持ちの良い汗を流して、キラキラ笑顔でいきましょう。



2、経歴

1) 最終学歴

京都大学法科大学院

2) 過去の最高戦歴

全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 組手無差別級4位・新人賞

全日本学生大会 組手軽量級優勝 等

3) 職業

弁護士

